

## ■7月24日

## スターフライヤー、グアムチャーター便、売れ行き好調

(トラベルビジョンによると)

スターフライヤーは8月、北九州—グアム間で12往復のチャーターを運航する。同社が米国内に就航するのはこれが初めて。全席を旅行会社がパッケージ化しており、7G代表取締役常務執行役員営業本部長の高橋信氏によると、家族客を中心に「非常に好調」な売れ行きだ。

チャーターは、エイチ・アイ・エス(HIS)、JTB九州、日本旅行、近畿日本ツーリスト九州、西鉄旅行、読売旅行が商品化。いずれも小倉か北九州の拠点で扱っており、商圈は国内線と同様、北九州や下関エリアの取り込みが進んでいると見られる。

7Gでは、9月以降についてもグアムチャーターの可能性を検討しており、市場の反応や収益などを考慮して「できるかぎり長続きさせたい」という。ただし、現時点で9月と10月の連休についての計画はなく、高橋氏は「次のターゲットは年末年始」とした。

(トラベルビジョン)7/23

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58365> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58365>)

## 関西空港、A380 対応、ボーディングゲート整備

新関西国際空港会社はこのほど、関西国際空港の第1 旅客ターミナルの国際線ゲートのうち2カ所をA380 型機にも対応できるように、2 階建て搭乗橋を整備する方針を決めた。今後、搭乗橋の調達へ入札手続きを進める。日刊航空が報じた。

関西では現在、A380型機が飛来した場合、オープンスポットでの対応は可能となっているが、ターミナルから航空機へ直接乗降できるボーディングゲートは整備されていない。

現在のところA380 定期便の就航計画はないが、航空会社による計画が浮上してもすぐに受け入れられるよう同型機のアップパーデッキにも対応した搭乗橋を導入し、2014 年中には、整備を完了したい考えだ。

(日刊航空)7/24

<http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-0724-02.pdf> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-0724-02.pdf>)

## 春秋航空(LCC)、上海—高雄、台北路線開設へ

ウォール・ストリート・ジャーナルのインタビューに応じた春秋航空の王正華会長によると、中国LCC最大手の春秋航空は、まず上海と台湾南部の高雄を結ぶ路線を8月に、続いて上海—台北線を年末までに開設することを明らかにした。

(WSJ)7/24

<http://jp.wsj.com/article/SB10001424127887323689904578624323633955256.html> (->

<http://jp.wsj.com/article/SB10001424127887323689904578624323633955256.html>)

## 韓国、上半期、LCC利用旅客、前年同期比21%増

(yonhapnewsによると)

韓国国土交通部は23日、上半期(1~6月)の格安航空会社(LCC)の旅客数は計738万人で、前年同期比21.0%増加したと明らかにした。

国内線が512万人で同8.3%増加した。航空会社全体に占めるシェアは同期間に43.1%から47.8%に伸びた。

国際線は226万人で同46.5%増加した。シェアは9.3%で同2.5ポイント上昇した。特に仁川—グアム線と金海(釜山)—福岡線の格安航空会社のシェアは50%を超えた。

一方、大手航空会社の旅客数は円安などが響いて全体的に減少した。国内線では大韓航空が334万人で同14.5%減、アジアナ航空が218万人で同3.9%減少した。国際線は大韓航空が812万人で同2.6%減少し、アジアナ航空は566万人で同5.0%増加した。

(yonhapnews)7/23

<http://japanese.yonhapnews.co.kr/headline/2013/07/23/0200000000AJP20130723003000882.HTML> (->  
<http://japanese.yonhapnews.co.kr/headline/2013/07/23/0200000000AJP20130723003000882.HTML>)

#### エミレーツ航空、新カーゴターミナル建設

エミレーツ航空は、ドバイ・ワールド・セントラル・アル・マクトゥーム国際空港(以下、アル・マクトゥーム空港)において、エミレーツの貨物部門であるエミレーツ・スカイカーゴが専用ターミナルの建設工事に着手し、2014年5月より、エミレーツ・スカイカーゴの拠点を、新カーゴターミナルに移行することを発表した。

マイナビによると、新カーゴターミナルの建設に伴い、様々なサポート施設の建設やインフラ整備も計画。トラックドック46基やトラック駐車場80台分、ターミナルの正面には航空機駐機場12機分を設置する。更にドバイ国際空港には、インターフェースを増設する。

エミレーツ・スカイカーゴは、現在保有している貨物専用機8機のB777F型機と2機のB747-400ERF型機の合計10機すべての拠点を、アル・マクトゥーム空港へ移行する。初年度の新ターミナルでの年間取り扱い貨物量は70万トンを見込んでおり、需要に伴い増加させる予定。

ドバイ国際空港とアル・マクトゥーム空港の2空港間には、貨物専用機と旅客機間の積み替え時間を現在のレベルに維持させるための専用ロードフィーダーサービスが導入される。

(マイナビ)7/24

<http://news.mynavi.jp/news/2013/07/24/013/> (-> <http://news.mynavi.jp/news/2013/07/24/013/>)